

浸水対策

浸水の防除は下水道の大切な役割です。

大阪市では、浸水のない安全で快適な都市をめざして浸水対策を推進しています。

地形の特性と下水道の整備状況

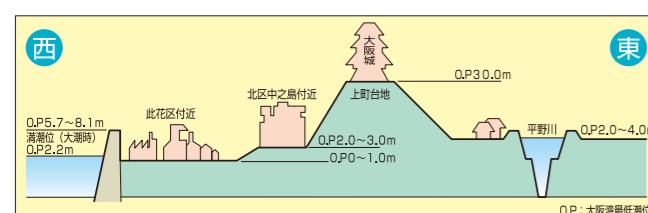
大阪平野は、淀川などの土砂の堆積によってできた沖積平野であり、上町台地等の一部を除いて大阪市域の約90%がポンプ排水に頼らなければならない雨に弱い地形となっています。大阪市の下水道は、1980年代にはほぼ100%整備されましたが、市域の都市化により、雨が浸透する地面が舗装化され、雨の大半は下水道管へ一時に集められるようになったため、浸水のリスクが高まり、下水道の役割はさらに重要となっています。

大阪市の浸水対策は、概ね10年に1回の大暴雨(1時間あたり60mmの降雨量)を対象に整備を進めています。雨水対策整備率^{*}は令和5年3月末時点で約80.1%と全国平均を上回っており、浸水被害は減少傾向にあります。しかし集中豪雨時には、今なお浸水が発生しています。

このため、抜本的な浸水対策として「淀の大放水路」をはじめとする主要な下水道幹線の建設や、「此花下水処理場内ポンプ場」などポンプ施設の新增設を進めています。

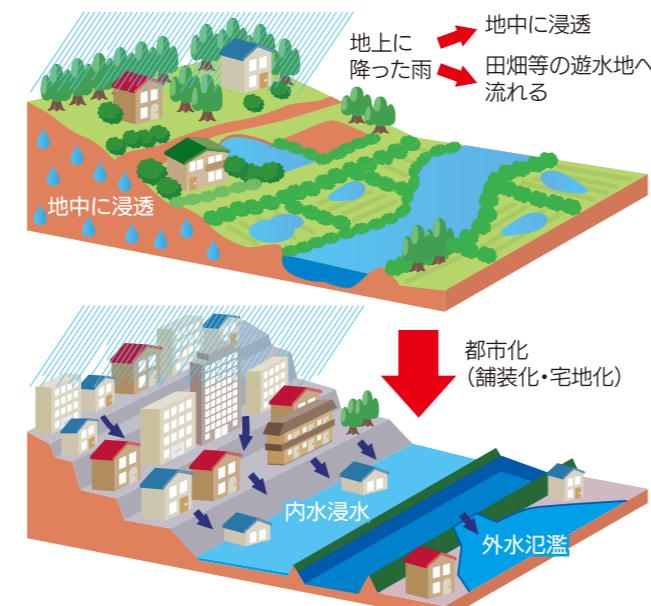
*雨水対策整備率…下水道整備ができた区域の比率

大阪市の地盤高図



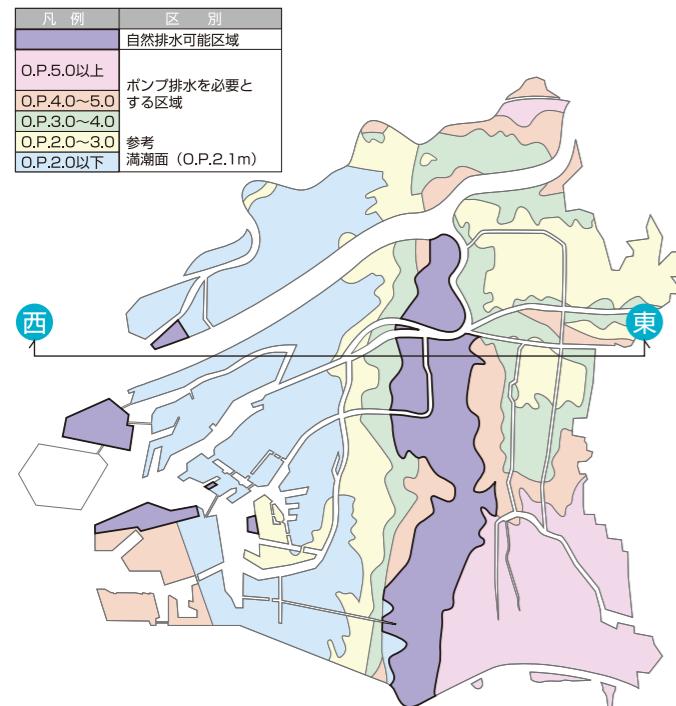
また、これらの大規模な雨水排水施設の整備には長い年月を要することから、近年の集中豪雨による浸水被害に対して比較的短期間に整備が可能である、ますますの増設や道路を横断する側溝の設置、枝線管きよのネットワーク化など、局地的な対策も進めてきました。今後も地域特性に応じた浸水対策を進めています。

市域の都市化

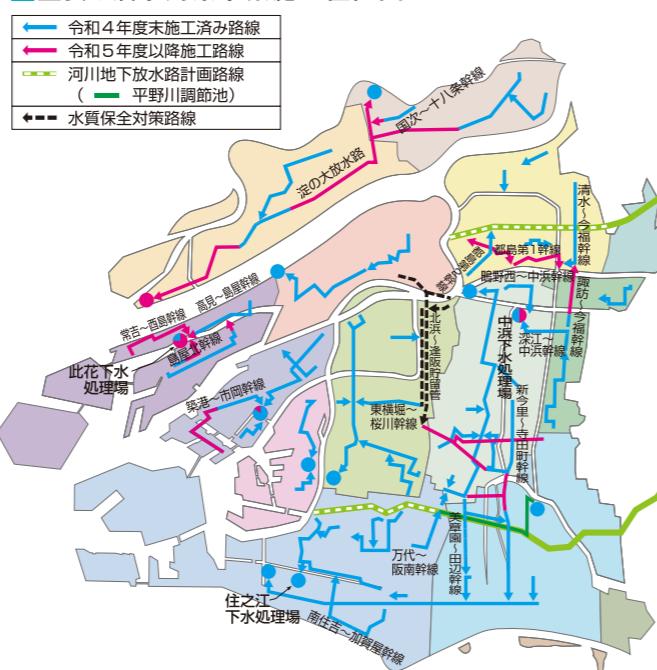


内水浸水: 大雨などの影響で、下水道・側溝・排水路などが雨を処理しきれず水はけが悪化し、土地・建物・道路などが水没してしまうこと。
外水氾濫: 川の水が堤防を越えて溢れる場合、または破堤した場合に起こる洪水。

大阪市の地形図



主要な浸水対策事業施工位置図



ハード対策: 下水道の新設・増設など

此花下水処理場内ポンプ場

正蓮寺川総合整備計画に伴い、此花処理区の北港抽水所・恩貴島抽水所の放流先である正蓮寺川が暗渠化されるため、北港抽水所及び恩貴島抽水所廃止の代替施設及び能力増強として、此花下水処理場に新たにポンプ場の建設を行っています。



此花下水処理場内ポンプ場

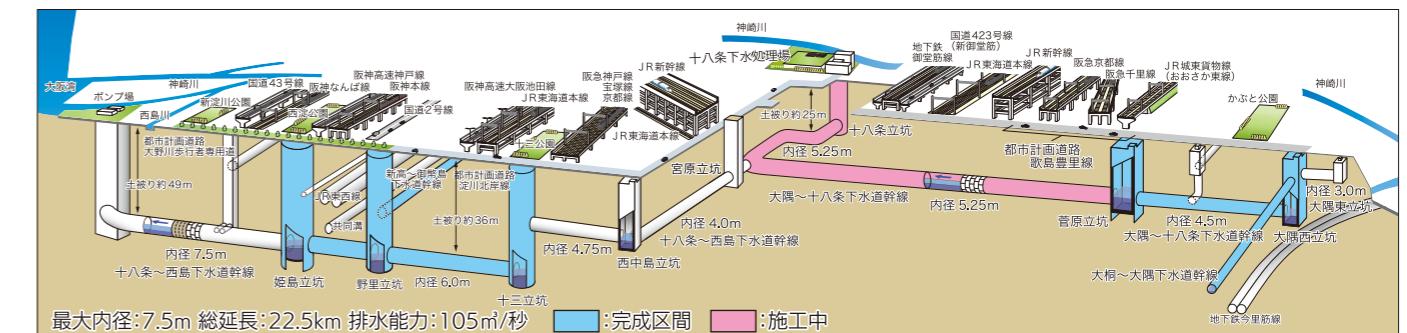
淀の大放水路

淀の大放水路は、大野処理区と十八条処理区の二つの処理区にまたがる最大内径7.5m、総延長22.5kmの下水道幹線であり、淀川以北(西淀川区・淀川区・東淀川区)の抜本的な浸水対策として、平成3年度から建設が進められています。

なお、全体計画の完成までには長期間を必要とすることから、工事の完成した区間から暫定的に雨水を一時貯留し、浸水の緩和を図っています。

- 平成9年度 約5万m³ 一時貯留開始
 - 平成18年度 約9.5万m³ 一時貯留開始
 - 令和元年度 約1.5万m³ 一時貯留開始
- 計 約16万m³

淀の大放水路



ソフト対策: 自助・共助を啓発する取り組み

水害ハザードマップ

想定以上の大雨により浸水が予想される区域と避難時の心得を示した「水害ハザードマップ」を作成しています。

浸水による被害を軽減するためには、自分の住んでいる場所がどの程度浸水する恐があるのかを把握し、いざという時にとるべき行動をあらかじめ考えておくなど、日頃からの備えが重要です。

これらを役立てていただき、もしもの時の役割や連絡方法などを今一度よく話し合っておきましょう。

なお、「水害ハザードマップ」は各区役所または大阪市危機管理室で配布しているほか、大阪市ホームページからもご覧いただけます。

[大阪市ハザードマップ検索](#)

降雨情報の提供

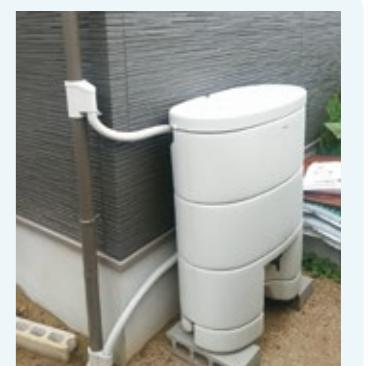
大阪市ホームページにて、浸水被害の軽減を目的に降雨情報を提供しています。

[大阪市降雨情報](#)

土のうの貸し出し(管路管理センターのお問い合わせ先は裏表紙)

大雨時に浸水被害を未然に防止するため、要望に応じてお近くの管路管理センターから土のうの貸し出しを行っています。

[大阪市管路管理センター検索](#)



[大阪市雨水流出抑制施設検索](#)

[大阪市雨水貯留タンク検索](#)